

保健看護学科初年次教育の効果と課題 ー自己教育力および自己管理能力の側面からー

山口 直己・堀井 直子・牧野 典子・城 憲秀・杉田 豊子・足立はるゑ

1 はじめに

近年、大学全入時代に伴い、学習意欲や目的意識が低い学生の増加、大学生の学力低下などが指摘されている¹⁾。このような状況の中で、高等学校から大学での学習への円滑な移行を図るために、新入生を対象に大学での学問のスキルや生活リズムの構築などを中心とした「初年次教育」が注目されている。2007年に全国すべての国立・私立大学を対象に行われた調査によると、97%の大学で初年次教育が導入されているという²⁾。

本学においても初年次教育（以下、スタートアップセミナー）の重要性が叫ばれ、全学共通教育科目として2010年4月から導入された。保健看護学科においては、看護師・保健師など専門職を育成することを目的としていることから、学科創設以来「初年次教育」を重視し、大学での学習方法やレポートの書き方など春学期に開講される講義内で授業以外のプログラムとして取り入れてきた。今回、全学共通教育科目として位置づけられたことから、これまでの内容を系統的に整理し、初年次教育の目標を「学習スキル」、「健康生活」、「キャリアデザイン」の3本柱として春学期2単位で実施した。

我が国における初年次教育に関する研究の歴史は浅く、2007年に第1回初年次教育学会が開催されて以降、初年次教育に関する研究が報告されるようになった。先行研究では、実践報告や高校時代の学力、大学志望動機、学生のニーズから教育方法を検討した研究が中心となっており³⁻⁵⁾、教育効果に関する研究はまだ十分に検討されていない現状にある。

大学において学生が主体的・自律的に学びを深めていくには、主体的に学ぶ意思、態度などの「自己教育力」や自らの行動を統制し目的達成をめざす「自己管理能力」を高める必要があると考えられる。そこで今回、本学科のスタートアップセミナーの効果を検証するために、「自己教育力」、「自己管理能力」の2つの側面から調査し、初年次教育の今後の課題を検討することを目的とした。

2 研究目的

平成22年度入学生に実施したスタートアップセミナーの効果と課題を自己教育力および自己管理能力の側面から明らかにする。

<用語の定義>

「自己教育力」：主体的に学ぶ意思・態度・能力などをいい、学習への意欲、学習の仕方の習得、自己により自己を高め続ける意思や能力をいう⁶⁾。

「自己管理能力」：目的達成をめざし、自らの行動を統制・努力する能力をいう⁷⁾。

3 研究方法

3.1 研究対象

平成22年度保健看護学科に入学した1年生114名を対象とした。

なお、受講したプログラムを資料1に示す。

3.2 調査方法

無記名自記式調査表をスタートアップセミナー初回授業時（4月）と最終授業時（7月）に講義室にて配布し、参加が強制されることを避けるため回収箱を設けて回収した。

3.3 調査内容

1) 対象者の基本属性

性別、年齢の他に、個人が特定されず同一学生の前後比較を行うために携帯電話の下4桁の番号および好きな動物について質問した。

2) 自己教育力尺度

自己教育力の測定には、西村ら⁸⁾が作成した自己教育力測定尺度を用いた。この尺度は、「Ⅰ. 成長・発展への志向」、「Ⅱ. 自己の対象化と統制」、「Ⅲ. 学習の技能と基盤」、「Ⅳ. 自信・プライド・安定性」の4側面で構成されており、それぞれ10項目の下位項目からなっている。合計40項目からなる質問に対して、「とてもあてはまる：4」、「どちらかといえばあてはまる：3」、「どちらかといえばあてはまらない：2」、「まったくあてはまらない：1」の4件法で回答を求

めた。この尺度の総合得点は最低40から最高160点であり、総合得点が高い程、自己教育力が高いことを示している。

3) 自己管理能力

高橋ら⁹⁾が作成した自己管理スキル尺度を用いた。この尺度は、Rosenbaumのセルフ・コントロール・スケジュール、過去の社会的スキルに関する研究、ライフスキルに関する健康教育上の目標例などを参考に作成され、「何かしようとするときには、十分に情報収集をする」、「難しいことをするとき、できないかもしれないと考えてしまう」など自己管理スキルに関する10項目で構成されている。これらの質問に対して、「自己教育力」と同様に4件法で回答を求めた。この尺度の総合得点は最低10点から最高40点であり、総合得点が高い程、自己管理能力が高いことを示している。

3.4 分析方法

初回授業時と最終授業時における自己教育力および自己管理能力の総得点と各項目の比較検討を行った。さらに、自己教育力と自己管理能力の総得点が高かった順に高群、中群、低群の3群に分け同様に比較検討を行った。また、自己教育力については、「Ⅰ. 成長・発展への志向」、「Ⅱ. 自己の対象化と統制」、「Ⅲ. 学習の技能と基盤」、「Ⅳ. 自信・プライド・安定性」の4側面での比較も行った。前後比較にはWilcoxonの符号付順位検定を行い、5%未満を統計的に有意とした。統計分析にはSPSS Ver.15を用いた。

3.5 倫理的配慮

調査表を配布するにあたり対象学生に対して、研究の目的、個人情報保護、自由意志による参加、回答拒否により不利益は生じないこと、調査表は無記名であり、得られたデータは統計的処理を行うため個人が特定されないこと、データは研究目的以外には使用せず、研究終了後に破棄すること等を文書と口頭で説明

し、調査表への回答によって同意を得たものとした。なお、本研究を実施するにあたり本学倫理審査委員会の承認を得た（承認番号220007）。

4 結果

4.1 対象者の基本属性

調査表の回収数は初回授業時114名、最終授業時110名であった。その内、携帯番号の下4桁が前後で一致しており、欠損値がない84名を分析の対象とした。

性別は、男性12名（14.3%）、女性70名（83.3%）、未記入2名（2.4%）であった。年齢は、18歳～30歳、平均18.3±1.7歳であった。

4.2 自己教育力

1) スタートアップセミナー前後の総得点・因子別得点比較（表1）

自己教育力総得点は、セミナー前後において有意差は認められなかった。一方、因子別総得点では、「Ⅲ. 学習の技能と基盤（ $p<0.005$ ）」において有意差を認めた。その他の因子、「Ⅰ. 成長・発展への志向」、「Ⅱ. 自己の対象化と統制」、「Ⅳ. 自信・プライド・安定性」については有意差を認めなかった。

2) 項目別比較（表2）

項目別比較において有意に上がった項目は、「1. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい（ $p<0.000$ ）」、「2. 自分の調べたいことがある時に図書館（室）を利用している（ $p<0.003$ ）」、「14. 考えを深めたり、ひろげたりするのに話し合いや討議を大切にしている（ $p<0.002$ ）」、「31. 生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい（ $p<0.006$ ）」、「28. 疲れているときは何もしたくない（ $p<0.04$ ）」、「26. 自己評価するときには、自分の目標に照らしておこなっている（ $p<0.048$ ）」であった。逆に有意に下がった項目は、「33. ぼんやりと何も考えずに過ごしてしまうことが多い（ $p<0.009$ ）」であった。有意に上がった

表1 自己教育力総得点と因子別総合得点の比較

N=84					
		実施前		実施後	
		中央値	平均値 (SD)	中央値	平均値 (SD)
自己教育力総得点		105.0	105.1 (10.0)	107.0	106.4 (10.8)
因子	Ⅰ. 成長・発展への志向	30.0	31.0 (3.8)	31.0	30.4 (4.0)
	Ⅱ. 自己の対象化と統制	27.0	27.0 (2.9)	27.0	27.0 (3.1)
	Ⅲ. 学習の技能と基盤	24.0	25.0 (4.0)	25.0	25.2 (4.4)
	Ⅳ. 自信・プライド・安定性	23.0	24.0 (4.6)	24.0	23.7 (4.6)

** $p<.01$

表2 自己教育力得点項目ごとの比較

N=84

項 目(逆:逆転項目)		実施前		実施後		p値
		中央値	平均値	中央値	平均値	
Ⅰ 成長・発展への志向	1. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい	3.0	3.3	4.0	3.6	0.000***
	5. 自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい	4.0	3.5	3.0	3.4	0.289
	9. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい	3.0	3.2	3.0	3.2	0.899
	13. 自分でなければやれないことをやってみよう	3.0	3.3	3.5	3.3	0.359**
	17. 自分がやり始めたことは、最後までやりとげたい	3.0	3.3	3.0	3.2	0.670
	21. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい	3.0	3.4	4.0	3.5	0.287
	25. これから専門的な資格や学位などを取りたい	4.0	3.7	4.0	3.1	0.505
	29. いったい何のために勉強するのだろうか、といやになることがある (逆)	2.0	2.4	2.0	2.4	0.850
Ⅱ 自己の対象化と統制	33. ぼんやりと何も考えずに過ごしてしまうことが多い (逆)	2.0	2.0	2.0	1.8	0.009**
	37. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う (逆)	2.5	2.5	2.0	2.4	0.164
	4. 自分の良くないところを自分で考え直すようにいつも心がけている	3.0	3.1	3.0	3.1	0.436
	8. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	3.0	2.6	2.0	2.4	0.231
	12. 自分のよいところ悪いところがよくわかっている	3.0	3.0	3.0	3.1	0.179
	16. 他の人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする	3.0	3.2	3.0	3.2	0.534
	20. できるだけ自分を押さえて、他の人にあわせようとしている	3.0	2.7	3.0	2.6	0.534
	24. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	3.0	3.1	3.0	3.2	0.467
Ⅲ 学習の技能と基盤	28. 疲れているときには、何もしたくない (逆)	2.0	1.7	1.0	1.5	0.040*
	32. テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い (逆)	2.0	2.3	2.0	2.4	0.254
	36. ちょっといやなことがあると、すぐに不機嫌になる (逆)	3.0	2.6	3.0	2.6	0.646
	40. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする	3.0	3.0	3.0	2.9	0.511
	2. 自分の調べたいことがあるときに図書館(室)を利用している	2.0	2.1	2.0	2.4	0.003**
	6. 自分の調べたいことについて文献検索していくことができる	2.5	2.5	3.0	2.7	0.170
	10. 他の人の話を聞いたり本を読むとき、内容をふり返りまとめてみる習慣がある	2.0	2.4	2.0	2.4	0.906
	14. 考えを深めたり、ひろげたりするのに話し合いや討議を大切にしている	3.0	2.7	3.0	3.0	0.002**
Ⅳ 自信・プライド・安定性	18. 考えていることを筋道立てて書いたり、伝えたりできる	2.0	2.4	2.0	2.5	0.238
	22. たとえ話などをもちいて、人にわかりやすく、説明するのがにがてである (逆)	2.0	2.4	2.0	2.3	0.670
	26. 自己評価するときには、自分の目標にたどり着いている	3.0	2.6	3.0	2.8	0.048*
	30. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある	2.0	2.5	2.0	2.4	0.623
	34. わからないことがあると、すぐ人に聞く傾向がある (逆)	2.0	2.1	2.0	2.1	1.000
	38. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを調べる	3.0	2.6	3.0	2.6	0.882
	3. 今のままの自分ではいけない、とおもうことがある (逆)	1.0	1.5	1.0	1.5	0.524
	7. 他の人にばかにされるのは、がまんできない	2.0	2.5	3.0	2.7	0.063
	11. とくどき、自分自身がいやになる (逆)	2.0	1.8	2.0	1.8	0.973
	15. 何をやってもだめだと思う (逆)	3.0	2.9	3.0	2.8	0.204
	19. 自分のことをはずかしいと思うことがある (逆)	2.0	2.1	2.0	2.2	0.327
	23. 今の自分が幸福だと思う	3.0	3.1	3.0	3.1	0.505
	27. 自分のやることに自信を持っている方だと思う	2.0	2.5	3.0	2.6	0.303
	31. 生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい	2.0	2.2	2.0	2.4	0.006**
	35. 今の自分に満足している	2.0	1.9	2.0	2.0	0.225
	39. 自分にもいろいろと理えがあると思う	3.0	2.8	3.0	2.8	0.991

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$

表3 自己教育力総得点3群間の比較

N=84

項 目	実施前		実施後		p 値
	中央値	平均値(SD)	中央値	平均値(SD)	
高群(112以上)n=26	115.0	116.3(5.1)	115.0	115.9(8.7)	0.056
中群(103以上~111以下)n=30	105.0	105.8(3.0)	106.5	106.8(7.9)	0.460
低群(102以下)n=28	95.0	93.9(4.5)	99.0	97.2(6.5)	0.693

た6項目のうち、「2. 自分の調べたいことがある時に図書館(室)を利用している」、「14. 考えを深めたり、ひろげたりするのに話し合いや討議を大切にしている」、「26. 自己評価するときには、自分の目標に照らしておこなっている」の3項目は、第Ⅲ因子「Ⅲ. 学習の技能と基盤」に含まれる項目であった。

3) 総得点3群間の比較(表3)

スタートアップセミナー前の総得点を平均値±1/2

SDで3群(高群;112点以上、中群;103点以上~112未満、低群;102点以下)に分け、実施前後の総得点の比較を行った結果、高群において低下の傾向($p < 0.05$)を認めた。

4) 因子別3群間の比較(表4)

因子別3群間の比較では、中群の「Ⅲ. 学習の技能と基盤 ($p < 0.022$)」および低群の「Ⅳ. 自信・プライド・安定性 ($p < 0.006$)」において有意差を認めた。

表 4 因子別総合得点 3 群間の比較

因 子	高群 n=26						中群 n=30						低群 n=28					
	実施前			実施後			実施前			実施後			実施前			実施後		
	中央値	平均値 (SD)		中央値	平均値 (SD)	p 値	中央値	平均値 (SD)		中央値	平均値 (SD)	p 値	中央値	平均値 (SD)		中央値	平均値 (SD)	p 値
I. 成長・発展への志向	34.0	33.5(3.0)		33.0	33.2(2.9)	0.695	31.0	30.7(3.2)		29.5	30.1(3.9)	0.372	27.5	27.4(2.7)		28.0	28.3(3.6)	0.143
II. 自己の対象化と統制	28.0	29.0(2.9)		28.0	28.2(3.2)	0.191	27.0	27.4(2.0)		28.0	27.5(2.7)	0.691	25.0	25.2(2.6)		25.5	25.4(2.6)	0.935
III. 学習の技能と基盤	28.0	27.8(3.5)		28.0	28.1(4.0)	0.471	24.0	23.8(2.8)		25.0	25.2(3.6)	0.022*	22.0	21.6(3.0)		22.5	22.6(3.8)	0.138
IV. 自信・プライド・安定性	27.0	26.2(3.9)		26.0	26.4(3.9)	0.707	24.0	24.0(3.5)		23.5	24.0(4.0)	0.750	19.5	19.8(4.1)		22.0	21.0(4.4)	0.006**

** $p < .01$ * $p < .05$

4.3 自己管理能力

1) 総得点・項目別の比較

総得点では、スタートアップセミナー前後において有意差を認めなかった (表 5)。

項目別にて有意に上がった項目は、「2. 難しいことをするときには、できないかもしれないと考えてしまう ($p < 0.034$)」の 1 項目であった。逆に有意に低下した項目は、「8. しなくてはならないことよりも楽しいことを先にしてしまう ($p < 0.031$)」の 1 項目であった (表 6)。

2) 総得点 3 群間の比較 (表 7)

スタートアップセミナー前の総得点を平均値 $\pm 1/2$ SD で 3 群 (高群; 28.0 以上、中群; 25.0 以上 28.0 未満、低群; 24.2 以下) に分け、スタートアップセミナー前後の総得点の比較を行った。その結果、低群において、中央値 22.0 から 23.5 ($p < 0.001$) と有意に上がっていた。一方、高群においては、中央値 30.0 から 29.0 ($p < 0.027$) と有意に低下していた。

表 5 自己管理能力総得点の比較

N=84					
	実施前		実施後		p 値
	中央値	平均値 (SD)	中央値	平均値 (SD)	
自己管理能力総得点	26.0	26.2 (3.9)	26.0	26.1 (3.6)	0.935

表 6 自己管理能力項目ごとの比較

N = 84

項 目(逆:逆転項目)	実施前		実施後		p 値
	中央値	平均値	中央値	平均値	
1.何かをしようとするときには、十分に情報を収集する	3.0	2.6	3.0	2.6	0.605
2.難しいことをするときには、できないかもしれないと考えてしまう(逆)	2.0	1.9	2.0	2.2	0.034 *
3.失敗した場合、どこが悪かったかを反省しない(逆)	3.0	3.1	3.0	3.1	0.857
4.何かを実行するときには、自分なりの計画を立てる	3.0	2.9	3.0	2.9	0.214
5.失敗すると次回もだめだろうと考える(逆)	3.0	2.5	3.0	2.6	0.444
6.作業しやすい環境を作ることがにがてだ(逆)	3.0	2.7	3.0	2.6	0.096
7.困ったときには、すぐ何が問題かを明確にする	3.0	2.7	3.0	2.7	0.846
8.しなくてはならないことよりも楽しいことを先にしてしまう(逆)	2.0	2.3	2.0	2.1	0.031 *
9.何をしたらよいかを考えないまま行動を開始してしまう(逆)	3.0	2.5	2.0	2.4	0.355
10.自分ならできるはずだと心の中で自分を励ます	3.0	2.9	3.0	3.0	0.275

* $p < .05$

表 7 自己管理能力総得点 3 群間の比較

N=84

項 目	実施前		実施後		p 値
	中央値	平均値(SD)	中央値	平均値(SD)	
高群(28.0以上) n=19	30.0	31.2(2.3)	29.0	29.5(3.3)	0.027 *
中群(25.0以上28.0未満) n=39	27.0	26.6(1.1)	26.0	26.0(2.7)	0.129
低群(24.0以下) n=26	22.0	21.8(2.3)	23.5	23.7(3.0)	0.001 **

** $p < .01$ * $p < .05$

5 考察

5.1 初年次教育が自己教育力へ与える影響

自己教育力において、スタートアップセミナー前後で有意に上昇した因子は「Ⅲ. 学習の技能と基盤 ($p<0.05$)」であった。今回行ったスタートアップセミナーの内容は、自己教育力の中でも学習スキルの習得に効果があったと考えられる。これは、中部大学スタートアップセミナー共通内容「大学における初歩的な学びのスキル」を受けた取り組みの結果であり、成果は得られたと考える。項目別では、「自分で調べたいことがある時に図書館を利用している」、「考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議を大切にしている」、「自己評価するときには、自分の目標に照らして行っている」において有意差を認めた。これも、本学科のスタートアップセミナーの効果と考える。具体的には討議の前には、効果的なグループ学習の技法を学生に伝え、教員間で共通の教育目標を持ち、少人数制で学生をサポートしたことにより、学生同士が学び合い、助け合う機会を提供できたと考える。また、スタートアップセミナー共通内容「大学の基本理念や建学の精神」では、本学科は、大学理念や学科の教育目的・目標を教示する際、それらを4年間で達成するための具体的な行動目標を提示し説明している。学生にとっては4年間のアクションプランがイメージできる。看護職をめざす本学科の学生にとって「大学生生活のライフプランとキャリアデザイン (大学の共通内容)」にも結びつく取り組みと考える。さらに学科独自の取り組み¹⁰⁾として、学生は各セメスター終了時に行動目標について形成評価 (自己評価) をすることを課せられるため、自己目標を意識した自己評価の必要性は十分理解できていると考える。初年次教育のプログラムの特徴は、教育内容のみにあるのではなく、その前提として教育方法に特徴があると言われている。上述したように本学科のスタートアップセミナーにおける教育方法の工夫は入学後の学生が主体的に学び続けるためには重要な布石になっていると思われる。

自己教育力3群間比較では、入学時の自己教育力得点が中群だった学生は「Ⅲ. 学習の技能と基盤 ($p<0.022$)」においてスタートアップセミナー後には有意に上昇していた。また低群の学生は「Ⅳ. 自信・プライド・安定性 ($p<0.006$)」において、自己教育力得点の有意な上昇を認めた。今回行ったスタートアップセミナーの内容は、中群・低群の学生の学習スキルや大学生活を送ることへの意欲を高めることに繋がったと言える。初年次教育の本来のねらいは、高校から大学への円滑な移行にある。したがって入学時の自己教育力得点が中群と低群の学生においては期待通りの成果が得られたと考える。

本学科1期生 (2006年度生) に行った自己教育力に関する先行研究¹¹⁾において、自己教育力の総得点は入学時から入学1年後にかけて低下することが明らかになっているが、これは初年次教育が導入されていなかった時期の結果であった。今回の調査ではスタートアップセミナーの実施が自己教育力を高める糸口になる可能性が示唆された。

5.2 自己管理能力への効果

自己管理能力総得点において、スタートアップセミナー前後で有意差は認めなかったが、項目別比較では、「2. 難しいことをするとき、できないかもしれないと考えてしまう ($p<0.034$)」の1項目において有意差を認めた。大学という新しい環境の中で、初めて挑戦する課題に対して成功体験を持たない学生は、時間や健康、ストレスに対する自己管理スキルを学ぶことによって、困難なことに直面してもそれを乗り越えようとする意欲に繋がったことが推測される。

一方、有意に低下した項目は、「8. なくてはならないことよりも楽しいことを先にしてしまう ($p<0.031$)」、低下の傾向がみられた項目は、「6. 作業しやすい環境を作ることが苦手だ ($p<0.096$)」であった。日常的に、優先順位や生活ペースを整えることが出来ない状況が推測され、実行できるようになるにはある程度の時間が必要と考える。

さらに、総得点を高群・中群・低群の3群に分け、スタートアップセミナー前後の比較を行った結果、低群において有意な上昇 ($p<0.001$) を認めたが、高群においては、有意な低下を認めた ($p<0.027$)。今回のスタートアップセミナー内容は低群においては効果的であるが、高群の学生に対しては効果が期待できなかったことを示している。これは、入学時にある程度自己管理能力が身につけていても、新しい環境の中で健康生活をマネジメントしていくための困難性が推察された。本学科カリキュラムの特徴として、3年次秋学期より約1年間にわたる臨地実習がある。学内とは違い、「病院」という命を扱う環境の中で、毎日、新しい体験と多くの課題に取り組まなければならないため、自己管理能力の向上は重要な要件である。学生は受講後、自己管理能力の未熟さに気づき、身につけなければならないことも理解した。今後、機会あるごとに意識づけを行い、継続的に変化を確認していく必要がある。

本稿では、教育において重要視されている自己教育力と自己管理能力の2側面から初年次教育の成果を分析してきた。本学科では、スタートアップセミナーの実施に向けて、学生への教育の質保証をするために、教員用手引きを作成した。それによって担当教員の恣

意に委ねられることを回避し、共通の目的意識と内容・方法の共有をはかることができ、一定の成果を得ることができたと考える。

5.3 本学科における初年次教育の今後と課題

以上の分析結果から、本学科の初年次教育プログラムは「Ⅲ. 学習の技能と基盤」を高めること、入学時に自己教育力や自己管理能力が低い学生を高めることに効果があったと考える。初年次教育によって学生の自己教育力や自己管理能力がある程度促進するとしても、これらは各科目の学習を通して継続的に練磨されるものである。最終的には4年間の学士課程教育修了時に、何ができるようになっていくのかというアウトカム評価の文脈の中で検討する必要がある。

6 結論

保健看護学科のスタートアップセミナーの効果を「自己教育力」、「自己管理能力」の2側面から分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. スタートアップセミナーは、自己教育力の中でも「Ⅲ. 学習の技能と基盤」を高めることに効果があった。
2. スタートアップセミナーは、自己教育力得点中群・低群の学生の学習スキルや大学生活を送ることへの意欲を高めることに繋がった。一方、高群の学生の自己教育力に変化は認められなかった。
3. スタートアップセミナーは、自己管理能力の低い学生を高めることに効果があったが、高い学生は有意に低下していたことより、大学生活をマネジメントしていく困難性が示唆された。

謝辞

本調査にあたりご協力いただきました本学保健看護学科の学生の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 菊池重雄：初年次教育の実際－玉川大学における具体的な展開－. 看護教育, Vol.50(5), 382-387, 2009.
- 2) 山田礼子, 杉谷祐美子：初年次教育の「今」を考える－2001年調査と2007年調査の比較を手がかりに－. 大学教育学会誌, 30(2), 83-87, 2008.
- 3) 保田卓：高校生は大学に何を求めているか－志望校設置者別・学力別比較－. 大学教育学会誌, 29(2), 131-136, 2007.
- 4) 山田礼子, 相原総一郎, 沖清豪他：大学間・大学内における教育効果の比較検討－JCSS2005データから－. 日本教育社会学会大会発表要旨集録, 56, 119-122, 2004.
- 5) 前掲載2)
- 6) 西村千代子, 奥の茂代, 小林洋子他：看護婦の自己教育力. 日本赤十字幹部看護婦研修所紀要第11号, 9-39, 1995.
- 7) 高橋浩之：健康教育への招待, 大修館書店, 1996.
- 8) 前掲載6)
- 9) 前掲載7)
- 10) 堀井直子, 近藤暁子, 三浦清世美他：保健看護学科における「教育目標の形成評価システム」の導入－学生と指導教授からの評価－. 中部大学教育研究, No10, 109-116, 2010.
- 11) 牧野典子, 中山奈津紀, 堀井直子他：生命健康科学部学生の自己教育力－第二報 入学後1年間の自己教育力－. 中部大学生命健康科学部研究所紀要 第4号, 21-28, 2008.

助 教	看護実習センター	山口 直己
准教授	生命健康科学部 保健看護学科	堀井 直子
教 授	生命健康科学部 保健看護学科	牧野 典子
教 授	生命健康科学部 保健看護学科	城 憲秀
助 手	看護実習センター	杉田 豊子
教 授	生命健康科学部 保健看護学科	足立はるゑ

資料1 スタートアップセミナー講義概要

週 数	内 容	講義形態	担当者
[第1週]	「大学で何を学び、何を目標とするのか！」 保健看護学科の教育方針と教育目的達成のための取り組みについて	一斉講義	学科教員
[第2週]	大学での学び方	一斉講義	学内講師
[第3週]	看護学を学ぶ仲間を知ろう！	グループワーク	学科教員12名
[第4週]	大学生生活のライフプランー1:セルフマネジメント、タイムマネジメント等	一斉講義	学科教員
[第5週]	学習支援「レポートの作成方法」	一斉講義	学科教員
[第6週]	社会生活の基礎-1:「マナーとコミュニケーション(言葉使い)」	一斉講義	学外講師
[第7週]	社会生活の基礎-2:「よい人間関係とは！」	一斉講義	学内講師
[第8週]	社会生活の基礎-3:「充実した人生のための健康生活ー食生活、禁煙等」	一斉講義	学科教員
[第9週]	社会生活の基礎-4:「充実した人生のための健康生活ー食生活、禁煙等」	グループワーク	学科教員12名
[第10週]	学習スキル-1:「看護学の学習方法」	一斉講義	学科教員
[第11週]	学習スキル-2:「プレゼンテーションの方法(自己ピーアール等)」	講義・演習	学科教員
[第12週]	学習スキル-3:「文献検索の方法 I」	演習	学内講師
[第13週]	看護職のキャリアデザイン	一斉講義	学科教員
[第14週]	看護職のキャリアデザイン	グループワーク	学科教員12名
[第15週]	講演会:「キャリアプラン:専門看護師としての私の歩みと活動」	講演会	学外講師
[第16週]	発表会 テーマ:「看護職者としての私の人生デザイン」	グループワーク	学科教員12名